

ほむ・ほむ通信

No. 71 (最終号)

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ほむほむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。

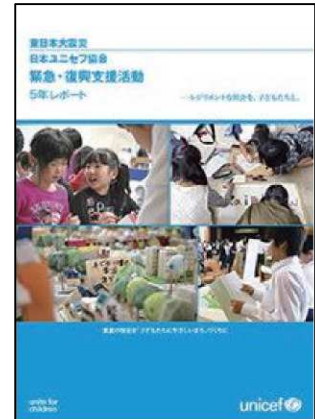


© UNICEF/UNI178344/Naftalin

ユニセフ・リベリア事務所代表
シェリドン・イェット(中央)



ほむ・ほむ通信第1号



東日本大震災 緊急・復興支援活動
5年レポート発行

目次

◇エボラ出血熱・緊急募金	1
◇知っとこ。ユニセフ	3
子どもにやさしい空間	
◇世界の子どもたちは今	4
シリアの苦しみを終わらせよう！	
◇ほむ・ほむ通信 プレイバック！	5
◇トピックス	
* 東日本大震災 緊急・復興支援活動—5年レポート	7
* 2016年 第34回ユニセフ・ラブウォーク中央大会	8

ほむ・ほむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



エボラ出血熱 緊急募金

～リベリア、シエラレオネ、ギニア 西アフリカ3ヶ国で終息へ～

2014年3月、ギニアでの発症を皮切りに、リベリア、シエラレオネを中心に感染の猛威を振るったエボラ出血熱。2016年1月14日、リベリアでエボラ出血熱の終息宣言がなされ、主な感染流行国での感染拡大に、大きな局面を迎えました。

エボラ出血熱流行の主要3カ国での終息宣言を受け、日本ユニセフ協会は、2014年3月より呼びかけていたエボラ出血熱緊急募金の受付を2016年1月31日(日)をもって終了しました。

全国の生協のみなさまの温かいご支援に改めて心より感謝申し上げます。



※地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

◆ 小さくなった制服 ～13歳ジョン君のストーリー～

13歳、成長期のジョン・カマラくん。身長もここ最近で著しく伸びています。エボラの影響によりシエラレオネ全土で2学期の開始が遅れ、その間に、ジョンくんの身体は以前着ていた制服が合わなくなるほど成長していました。

ジョンくんはパテ・バナ・マランクという、シエラレオネでもエボラで最も甚大な影響を受けた村の一つで暮らしています。流行の真っただ中、恐怖で村の外に逃げたまま行方不明になっている人々を除いても、この村で少なくとも119人が命を失いました。

ジョンくんはこの1年で、両親と5人の兄弟姉妹をエボラで失いました。現在、ジョンくんは妹と弟と一緒に、アダンセ・コロマさんというおばさんのもとで暮らしています。アダンセさんはジョンくんのために、制服のズボンに空いた穴を縫い合わせていました。しかし、ズボンの丈に関しては、どうすることもできません。

村を横切って学校に向かう他の子どもたちと合流したジョンくんのズボンの裾は、ふくらはぎまで上がっていました。しかし、「学校に行きたい」というジョンくんの熱意が、このようなことで失われることはありません。



© UNICEF Sierra Leone/2015/Kassaye

13歳のジョンくん(左)は、エボラから回復したものの、両親や兄弟姉妹を失った。今はおばさんのアダンセさん(中央上)と一緒に暮らしている。

「今僕が生きているのは、お医者さんが助けてくれたからです。とてもよくしてくれました」と、ジョンくんが語ります。「大きくなったらお医者さんになりたいです。だって、お医者さんが大好きだから。病気の人たちを上手に治療してあげたいです。この夢のためには、勉強をしなくてははいけません。だから、学校は休みたくありません。制服はあるけれど、穴だらけです。おばさんが昨日直してくれたので、学校に通うことができます。僕にはこの制服は小さすぎるけど、おばさんが僕のために新しい制服を買う余裕ができるまで、この制服を着て学校に行きます。」

◆ なお多大な影響を受ける子どもたち

これまでに、3万人近くの感染が確認され、1万人以上がその尊い命を奪われました。また、ギニア、リベリア、シエラレオネでは、2万3,000人ちかい子どもたちが片親もしくは両親を亡くしました。

それらの子どもたちにとっては、今日をもってエボラの影響が終わるということはありません。



© UNICEF/PFP2014-1167/Bindra

エボラで両親を失った子どもたち。

◆ ユニセフ・リベリア事務所 代表からのメッセージ

「エボラ出血熱で影響を受けた子どもたちのために、あたたかいご支援をお寄せくださったみなさまに、心より感謝申し上げます。この17カ月間、子どもたちやその家族は、恐ろしい日々を過ごしました。エボラが蔓延する以前でさえも、リベリアの子どもたちは、質の高い保健や教育、社会サービスに十分にアクセスできていませんでした。



© UNICEF/UNI178344/Naftalin

ユニセフ・リベリア事務所代表
シェリドン・イェット(中央)。

私たちは今、これまで以上に厳しい状況乗り越えなければなりません。ユニセフは引き続き、コミュニティレベルにおける教育や保健、その他サービスへのアクセスの改善に焦点をあてて、はしかや百日咳、エボラなどの脅威にリベリアが将来直面したときのために、最善の備えを確保することに焦点をあてています。

みなさまのお力添えで、多くの子どもたちをエボラの脅威から守り、地域が一丸となって、エボラに立ち向かうことができました。みなさまのご支援に、深く御礼申し上げます。」

◆ 長期的なケアや支援が必要

ユニセフは、緊急募金活動終了後も、エボラが流行し始めた当初より引き続き、必要とされた支援物資や水と衛生支援の提供、コミュニティでの啓発活動のための人員配置、エボラで孤児となったり影響を受けたりした子どもたちへの支援、そして、子どもたちが教育を続けるための支援活動などを続けていきます。コミュニティの人々が自ら先頭に立って行動できるよう、ユニセフはパートナーと共に、コミュニティを基盤としたネットワーク構築に取り組んでいきます。



© UNICEF/UNI178344/Naftalin

防護服に身を包んだスタッフと遊ぶ、
母親をエボラで亡くした1歳6カ月の子ども。

(参考資料:エボラ出血熱緊急支援特設ページ、第85報、第86報より抜粋)

エボラの影響を受ける子どもたちに対する みなさまのあたたかいご支援に感謝いたします

日本ユニセフ協会が2014年3月から受付を開始した「エボラ出血熱緊急募金」には、全国の生協から、4,800万円を超える募金が寄せられました。
みなさまのご協力に感謝いたします。

知りたい?

知っここ。ユニセフ

子どもにやさしい空間

ユニセフ緊急支援の中に「子どもにやさしい空間」の設置があります。
水、衛生、必要な物資は多々ありますが、子どもの権利条約に基づき、子どものところに寄り添うケアを大切にする、ユニセフらしい取り組みの1つです。
今回はこの「子どもにやさしい空間」をご紹介します。

「子どもにやさしい空間」とは

災害や緊急事態において、避難した先などで子どもたちが安心して、そして安全に過ごすことができる場を指します。

そこでは、子どもたちの遊びや学び、ころやからだの健康を支えるための、多様な活動や情報が提供されます。

「子どもにやさしい空間」とはどういうもの?

子どもたちの遊びや学びの場となります。そこには子どもの多様性（年齢や性別など）にあったおもちゃや道具があり、おとなに見守られながら、ひとりで自由に過ごすことができます。

また、子ども同士の交流が促されるようなさまざまな活動に参加することができます。

子どもたちは、仲間とともに遊び、活動する中で回復していくでしょう。



子どもにやさしい空間 ガイドブック

ユニセフHPからダウンロードできます
<http://www.unicef.or.jp/news/2015/0355.html>

ユニセフが2010年発行した実践的ガイドブックを基に、2013年東日本大震災の支援活動の経験を踏まえた日本語版が2冊組で発行されました。

緊急時のみならず子どもの居場所づくりやこどもとの接し方など、平時の取り組みにもさまざまなヒントを与えてくれるものと考え、2015年新たに1冊に再編集して全国の幼稚園や小中高学校に配布されました。

日本ユニセフ協会は、東日本大震災の支援活動を継続しながら、活動の経験を今後活かすための取り組みを進めています

「箱の中の幼稚園」と名づけられたキットをご存知ですか?

これらは
ユニセフハウスに
展示されています

「緊急支援テント」の中にも「ぬいぐるみやおもちゃ」があることにお気づきですか?



(C)UNICEF/NYHQ2009-1037/Markisz

子どもたちがやさしい空間につつまれることを願ってやみません。



世界の子どもたちは今

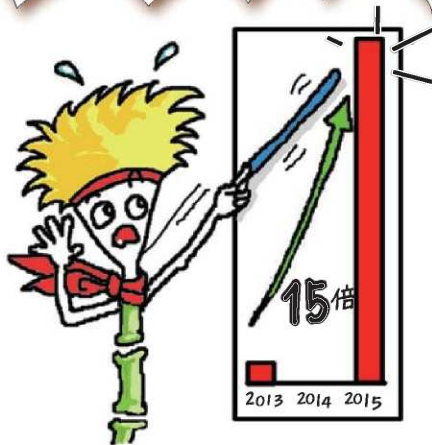


シリア

『シリアの苦しみを終わらせよう!』

5年にわたって多くの一般市民を苦しめている『シリア危機』を終わらせるために、世界で活動する国連機関・人道支援機関が共同声明を発表しました。この声明は、ユニセフ事務局長や日本ユニセフ協会会長はじめ、各機関・組織の代表者120人以上が賛同し署名しています。各国の政府のみならず、世界の市民一人一人に呼びかけ、声をあげることを強く求めています。

シリア危機は本当に深刻な状況なんだ。
今すぐ支援の必要な子どもは800万人……と、
過去3年間に15倍に膨れ上がっているんだ



1

毎日が命の危険と隣り合わせ。
爆撃や銃撃戦、暴力を見てきた
トラウマに苦しめられて
いるのね

眠れない…

怖いよ〜!

『シリアの苦しみを終わらせよう!』

疲れた〜

2

安全な場所を求めて、
ヨーロッパに渡るのも
命がけだったね



3

親とはぐれたり、保護者
を伴わずに移動している
子どもも増加しているのよ

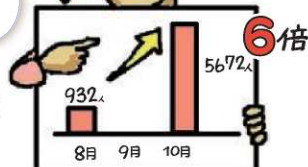
早く紛争が終わってほしいね。
自分の国で、家族と一緒に暮らして、
学校へ行って、そんな普通の暮らし
ができるまで、ぼくたちも
できることをしなくちゃね

4

うん! わたしは
友だちにも知らせよう!

去年8月から
約2か月で6倍!

今はどれぐらい
かな〜?



ぼむ・ぼむ通信 プレイバック！



1997年6月10日に創刊したぼむ・ぼむ通信。その歴史を振り返ります！

第1号

1997年6月10日発行



創刊号の表紙はさいたまコープ（当時）の活動報告でした！テーマは「一人ひとりができることから」。ユニセフ活動の原点ですね。

創刊にあたっては、ぼむ・ぼむ通信でやりたいことがありました。いくつかできたかな・・・

～ぼむ・ぼむ通信発刊にあたって～

いくつかの〇〇したい

① ユニセフの様々な情報をお知らせしたい	② 何か行動を起こせるお手伝いをしたい
③ おとなりの生協の活動をお伝えしたい	④ いろんな意見を交換したい

こんな思いで発刊します!!

① 気になった記事はどんどん切りぬいてコピーしてみんなに伝えてください	② 問い合わせをきいてみて、新しい活動のきっかけにしてください	③ 投稿大歓迎。みんなに知らせたい事、教えてください
-------------------------------------	---------------------------------	----------------------------

...そんな風に利用していただけたら幸せです。

第9号

2000年3月1日発行



「世界の子どもたちは今」でおなじみのセンちゃんプウちゃん。旋風を巻き起こす二人の名前は第9号で決まりました。

第13号

2001年3月15日発行

ユニセフ*コープ ネットワーク

探検 世界のくらし England

英国式すてきなスキンシップ

人と人との結びつきを大切にする心

留学したのはオックスフォードの近くにあるチェルトナムという小さな田舎町で、言葉がきれいなことで知られています。学校があるときは寮で生活し、休みのときはホストファミリーの家にお世話になりました。

ホストファミリーは、私と同じ歳の女の子と、弟がいる4人家族でした。イギリスのお宅でお世話になるということで最初はとても身構えていましたが、ホストファミリーの方はとても自然に迎えてくれました。初めて会う人でもキスをしたり抱き合ったり...イギリスの家庭はスキンシップが多いので、びっくり。私にも同じように接してくれるので最初は戸惑いましたが、今はスキンシップはすてきなことだなあ、と思います。

かつてはこんなコーナーもありました。外国での生活経験のある方のロングインタビュー。お国のレシピが掲載されることも。

第35号

2007年3月15日発行

生協の取り組み

2005年～2006年に取り組まれた主な緊急募金のご協力総額は以下の通りです。(2007年2月14日集計)

スマトラ沖地震・津波緊急募金	2億6,836万6,069円
スマトラ沖地震・津波復興支援募金	1億2,846万0,505円
パキスタン地震緊急募金	1億3,014万9,524円
ジャワ島地震緊急募金	1億1,113万5,924円
フィリピン地滑り緊急募金	707万7,466円

ベットボトル募金箱をレジ台に設置(いわて生協)

2005年～6年には自然災害が多発しました。ユニセフの呼びかけに応じて、全国の生協は迅速に緊急募金に取り組みました。

第44号

2009年6月15日発行

生協のユニセフ活動30年の歩みをまとめて連載で紹介しました。

生協のユニセフ支援活動 30年のとりくみ

1 創生期(1979年～1984年)

— 「バケツ一杯の水」からのスタート —

生協が初めてユニセフ支援に取り組んだのが「バケツ一杯の水を送ろう」の運動でした。あれから30年が経ちました。きっかけとなったのは1979年の国際児童年、ユニセフから協同組合の国際機関であるICA(国際協同組合同盟)へのアピールでした。当時、開発途上国の子どもたちの一番の仕事が「水くみ」、生きて行くのに必要な「水くみ」が一番の重労働で子どもたちは遊んだり、学校に行く時間さえありませんでした。ICAがユニセフに提案し世界の協同組合に呼びかけたのが、そんな子どもたちに「バケツ一杯の水を送ろう」キャンペーンでした。井戸を掘り、

そして現在・・・

第70号

2015年12月15日発行



子どもにやさしい空間で笑顔を見る子どもたち。

◆ 大地震から6カ月、ユニセフの支援

被災地震発生から6カ月で、ユニセフはポリオやはしか、風疹の予防接種をたちに実施し、破壊された保健施設に代わる仮設の病院や保健センターを子どもたちが適切な栄養を摂れるようにするため、ユニセフによる訓練を受けティアが約50万人の子どもに支援を行っています。そしてネパール政府と安全な飲料水にアクセスできるようにしています。

2015年4月25日、ネパールの首都カトマンズをマグニチュード7.8の地震が直撃。被災地域では、水や食料の不足、停電、通信網の遮断が続きました。こうした危機において、子どもたちは特に厳しい状況に置かれました。

ユニセフはみなさまにお寄せいただいた募金をもとに、水と衛生、保健、栄養、教育、子どもの保護の分野において、大地震で被害を受けた子どもたちへの支援に全力を挙げてこの半年間、活動を行ってきました。

2015年4月25日にネパールで大地震が発生。全国の生協は今回も大急ぎで募金に取り組み、2億円以上が集まりました。

内紛やテロリズムなど、今なお世界の子どもたちが困難な状況に置かれています。

世界の子どもたちは今

ヨーロッパ 難民危機

母国の激しくなる内紛等からのがれ、ヨーロッパに到着した難民は、2015年10月の1か月間で、昨年の1年間の難民数と同じ数になり、その半数以上がシリアからの難民です。安全でより良い場所を求めて、いくつもの国境を越え、海を渡り、危険と隣り合わせの長い旅です。その中に、親とはぐれたり、保護者を伴わない子どもたちが急激に増加しており、支援が急がれています。

こんな小さなゴムボートにギュギュ詰め!! 定員オーバーだよ～!

君のお母さんやお父さんは?

途中ではぐれちゃったんだ～!

これからも力を合わせて、世界の子どもたちのためにユニセフ活動に取り組んで行きましょう!

トピックス Topics



もう ご覧になりましたか？

すべての社会の発展に必要なキーワード

「遊び」「居場所」「参加」

「東日本大震災 緊急・復興支援活動 -5年レポート」

子どもたちの生きる力を 育てる

震災発生から5年。

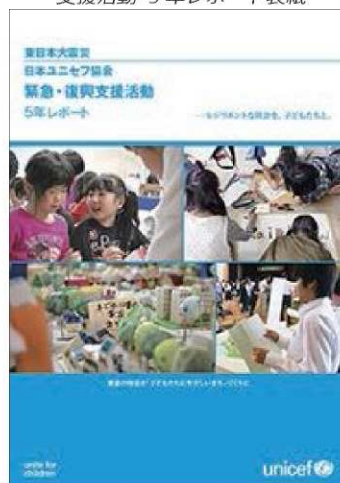
2011年3月にスタートした
復興支援活動の根底に常にあっ

たのは、「Build Back Better」、すなわち「震災前より良い状況を創ることに繋がる支援を行うこと」という考え方でした。

ユニセフは震災直後から、一瞬にして日常を奪われた子どもたちが、子どもらしく過ごせる時間を取り戻せる「居場所」を提供し、「遊び」を通じて心のケアを提供する「子どもにやさしい空間」活動を展開してきました。

「遊び」や「参加」は、余暇を超えたもの。子どもたちが、最も自由に心と体の全てを使ってもてる能力を発揮することです。それは子どもたちの心を守り、育み、そして生きる力を育てる、子どもたちにとっては欠くことのできない日常なのです。

東日本大震災 緊急・復興
支援活動-5年レポート表紙



「居場所」を確保し、 レジリエンスを高める

ユニセフは、その子どもたちの生きる力を育てることこそが、子どもたちの、そして社会全体のレジリエンス（災害への対応力・回復力）を高めることだと考えます。だからこそ、おとなは、

その場＝「居場所」を確保しなければならないのです。東日本大震災の被災地はもちろん、あらゆる社会の発展のために。いろいろな方々からの協力を得て続けてきたこの取り組みは、本年末をもって終了します。そこで、改めて活動の様子や収支報告を『緊急・復興支援活動 5年レポート』としてまとめました。

緊急・復興支援における 6つの取り組み

「復旧」ではなく「復興」～震災前より良い状態に 「Build Back Better」

子どもたちが安心して戻れる、子どもたちにとってやさしい「地域」の復興へ





一緒に歩いて、ユニセフ募金。世界の子どもたちに笑顔をお届けませんか？



思い思いのペースで歩いた汗が開発途上国の子どもたちのために役立てられるユニセフ・ラブウォーク。毎年多くの方にご参加いただいている ユニセフ・ラブウォーク中央大会が今年も4月3日(日)に開催されます。

この大会は、ユニセフハウスをスタートしてゴールする6キロと12キロのコースを子どもから大人まで自分のペースで楽しく歩いていただくことで開発途上国の子どもたちのために役立てられます。世界の子どもたちのことを家族、友人、職場の仲間と考える機会にしませんか。ぜひご参加ください。

※ラブウォーク中央大会のチラシ

【開催日時】

2016年4月3日(日曜日) ※雨天決行
受付開始9時

【開催場所】

スタート・ゴールともにユニセフハウス

【参加費】大人¥1000、こども(18歳未満)¥300

【テーマ】『すべての子どもに5歳の誕生日を』

【主催】日本ユニセフ・ラブウォーク協議会



ラブウォーク中央大会の様子

6kmコース 集団歩行



12kmコース 自由歩行



※詳しくは日本ユニセフ協会
ホームページをご覧ください。
<http://www.unicef.or.jp>

【申込み・お問い合わせ】
日本ユニセフ協会 団体・企業事業部まで
(電話: 03-5789-2012/メール: event-dr@unicefu.or.jp)
※当日、会場での参加受付も行います。

ぼむ・ぼむ広場

編集後記

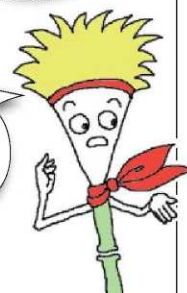


今までいろいろな国を見てきたね。
紛争や災害で大変な状況下でも、ユニセフは子どもの命、健康、
子どもの権利を守るためにさまざまな支援を続けていたよね。

うん、ユニセフは、大切な、最も脆弱な子どもを守り育てる使命を
持っているからね。

『今日の子どもたちの幸せは、明日の世界の平和と切っても切れない関係にある。』

これは、1965年にノーベル平和賞を受賞したユニセフの第2代事務局長
ヘンリー・ラブイスの言葉。平和を願いつつ、今できる支援を他の
機関と協力しながらがんばっているんだ。



どの国の子どもたちも安心して暮らせるように、
これからもユニセフの活動を応援していこうね！

(松本・蛭沢)

◆最終号のこのときにパソコンが不調になり、最後の最後にみなさんにご迷惑をかけてしまいました。3児の母として世界の子どもたちが悲惨な目に遭っていることは身につまされることでした。少しでも苦しんでいる子たちの助けになればと思って仲間に入れていただいた「ぼむぼむ通信」。子どもたちのためのみならず私のスキルアップまでもさせていただきました。思いを一つにした素晴らしい仲間たちとの数年間は一生忘れられません。(小池)

◆「ぼむぼむ通信」に私がかかわったのはNo.60から、それまで「ぼむぼむ通信」があることを知りませんでした。皆さんに教えていただきながらやっとわかってきたときになくなる知らせに驚き残念です。私はコープみらいの組合員でユニセフ埼玉県協会運営ボランティアをしています。これからは短い期間でしたが「ぼむぼむ通信」編集員として学んだことを役立て、わからないことは調べながら活動をしていきたいと思います。(武田)

◆ぼむぼむ通信がなくなってしまうのは寂しいですね。私は、2013年7月から編集会議に参加して、ユニセフの活動をもっと知りたい、もっと伝えたい、そして、これからも楽しく編集会議に参加しようと思っていたのですが…。ぼむぼむ通信は今回の、71号で最後になりますが、少しずつでも読み返しながら、ユニセフのことを考えていこうと思います。コープの活動の中でも、ユニセフの活動に目を向けて、子どもたちの未来を見つめていきましょう。このまま終わるなんてもったいない！(立川 順子)

◆この冊子作りに参加するようになり、ユニセフ活動について特に関心を持つようになった数年間。関わったのは短い期間ではあったが、難民の子どもたちのようすなどいろいろ知ることができた。今後、どうやって関わり続けられるかが課題！ 一人一人の力は小さくても、まとまれば威力を発揮するのでは…。”小さな心の灯火を、ユニセフに!!” (土橋)

◆どんなに難しいことでも、努力を続けることが解決に繋がることを、ユニセフの成功例から学び、勇気をもらいながら「ぼむぼむ通信」に関わり、この度卒業いたします。自然災害や人道危機が続く中、報道されない危機や地道な取り組みに必要な資金の確保が年々難しくなっているようで、10円玉一個でも子どもの「命」が救えることをきちんと伝え、きちんと広められることが大切と改めて思いました。ご愛読に感謝です。(浜崎)

◆ぼむぼむ通信が始まったのは1997年。あの頃から思うと20年近く先の未来であった2016年。何が違って、何が変わっていないのだろう？ 子どもたちを取り巻く環境は良くなっただろうか？ 今、私が願うことは1つです。「子どもたちに教育を！」銃を持つのではなく、幼いのに結婚したり、生活のために働いたりすることなく、学校で学べること。それが子どもたちの未来のために、何よりも大切であると、確信します。応援していきます。(山本)

◆ぼむぼむ通信の編集会議に初めて参加したのは2011年5月。最初の会議ではとても緊張したのを覚えています。生協の一組合員さんという立場から生のご意見をいただける会議は本当に貴重なもので、「そうか、これは国際協力業界の用語で一般の組合員さんにはわかりにくいなあ」など、気づかされることが多かったです。ぼむぼむ通信はいったん終了しますが、これからも世界の子どもたちの味方でいてください。(石尾)

◆生協のユニセフ活動の歴史は30年以上。その中で「ぼむぼむ通信」の歴史は約20年！バックナンバーをひも解くと、全国の生協組合員のみなさんの、世界の子どもたちを想う気持ちがひしひしと伝わってきます。自然災害の増加やテロ・人道危機など、世界の子どもたちを取り巻く状況は今なお時に過酷です。まだまだやることいっぱいです。これからも生協のユニセフ活動をよろしく願いいたします。(櫻井)

ユニセフ*コープネットワーク **ぼむぼむ通信**
No. 71 2016年3月15日発行
編集 **グループ ぼむ・ぼむ**
スタッフ・編集／蛸沢・小池・武田・立川・土橋・浜崎・松本
山本・石尾・櫻井

発行 日本生協連 組合員活動部
〒150-8913
東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コープラサ* 11F
TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

長い間、ご愛読ありがとうございました。またどこかでお目にかかりましょう。